桐一葉

五幕目　下の一

寄手の人

富家乳母自害の場（つづき）

かくる騒ぎの折からも太郎道軒同じく修羅場に相さ
きに参入し道軒一行うちたち三人まで不審の為拘ゆゑ
[illegible]事と心得の上にて伊賀なほ何人の身の上にて
思ひ[illegible]の所存にて[illegible]
所にて結き入るさこそ秘蔵[illegible]
くやみ[illegible]
なりくるなだまし[illegible]道軒目[illegible]

てゝ人賜ふ御方さまの御答子こよひの大和絵屏風をみ
てゝかけさせらるゝ無御名所にさゝうつゝ
氣の様めることゝでゝたるとゝいくもゝやこの剣道先人が極
絵もいかゞ八十何とゝものゝたゝうへ上の例
の如く何とゝ心ゝ賜ふまゝ御ものもゝ桂殿とゝ
し様所ならみゝきゝゝ道一方に代すゝ絵
馬方必ず共たゝうゝ中に御の一人御様嘆と
同人まゝれ共の家内野ゝ利路相ゝ心得まゝてゝ
まゝるのふゝい人雪縁ゝゝ雪をゝゝ入りよ
ゝる道へイヤさの家尼ゝの絵像さゝゝなゝゝ今年に歌
ゝも誰なゝし様ゝゝ共のなゝゝいゝゝ今
かゝ雪細や合羽銀のゝなきゝゝ年初ゝゝ
其の後も同ゝゝゝ雨ゝ畏ゝまゝて今ゝゝ道ゝ生者
必滅なゝゝなゝ身ゝ知ゝ御ゝゝ
道なん限ゝ何派業の拝ぶゝゝゝ
家ゝゝす一日桂ゝ本に涙の雨をゝけいゝ
其の生ゝゝゝ約束ゝゝ
きゝゝゝこゝの何ちゝなゝ誰御ゝ
どゝ命と男人箱世の国ゝゝなゝゝ
ゝゝめゝ思ゝ御詠ゝ天ゝ地ゝ

用紙

先下

絵

えびらぶくろ金仕こしやがて祝ふ千秋万歳千箱の
玉手箱つゞらに子を移らんとすれども生年百の折
うげらふのが飛ぶとはそぢんにのやうにて老びのすゝ
花ばなずば気まぐれ水みづゝとなれば花まれすまい思ひ
船のしうげらふのがうゝとつゝ秋ぶるのかゝまれ
雨ゝとゝもあらぬ世なきがらとぶちゝいろ
曙ゝまゝとまでも生のして寄き立分ざのに
さゝみゝゝ勝ゝゝゝるにきゝあらきあ仮山実ゝと
下されト見得ゝゝれゝ汚きゝゝゝ通ゝゝさ
のだゝ船の的ハ見當ちゝゝゝ遊ゝゝゝゝゝゝ

用紙

とうとの科のない筈と八とうまと如何ってなるゆえと
いぶかるとて歌見なし道へ八げたまゆえを眼く
らいと當々無双の文女といふ所御さんとその面つ
澄るかりらるとがらが鶯を烏と見ちがひからくたと
まるもことわりのげらるが世間けだけ自富一定さるが
があると見と不富といおぼさあかこへ何とかるる道へ大
鶯に親を儒す背る時宜のあるとて富貴見
もそ美るとすらるん今いるる何とな
のサ女に後妻肛持癸稱とりみ噂もなる秘兵鬼と表お鶯
かを図と一味の縁例とて先中村長八やはるる
の内相談大儀九も陸奥なんなら居るるのるる無
生で以竟 [redacted] 叶意
[redacted] 長八
の原に北の故と監平以來目星をつけ内を嬢子を寵ふ
うち氣の毒なんむすこで限ての怖ろ〳〵国にこがれ氣
ぬけのよるてならもしと義ってそぐつて歌息所注め
緣 意に為るで八国家のたまり長八と緣
切らもずさりそもじぶ心背かん国前の言葉左こ双方
への言訳に女人を見殺と方こが無為の泡明
合堀に畳庭の尚殺このやら自宅やらてるからみ花筵
のなりさまに一通の書面きさ徒らあが不富つ一

用紙

何とさ〻ぞムるまいすべ〻フムスリヤ自宅と見せうみけうん
とくんでこそやとっ〻やりまするか道そこ一このさび殺さず
其人堅固なのいのうげらふツてりに命いないものと見切そう
けし岩国の策略[illegible]無数の親に忠
臣なし而ろの心[illegible]行[illegible]大抵[illegible]底[illegible]見えよ[illegible]
[illegible]如心の[illegible]かれ心一匂に
[illegible]秘かつ[illegible]生中のこと仕出来
[illegible]銀を盗ん[illegible]が非業の最後と遂げやっ[illegible]元
情けなや[illegible]
誠の忠臣の[illegible]何の[illegible]而ろの所為も同様式
くちを[illegible]やかと知らず何のさると言ひ何の[illegible]
[illegible]
せう然めらやらくやらいやら西の[illegible]てるまでめ[illegible]
[illegible]道理ふさうなら私の歌さてちまとや一たち
家の存亡再[illegible]再三お召出に成るべと
何の片桐市正所存なりといひ[illegible]
[illegible]いまだ今日まで[illegible]内々拵氣と往復なし
[illegible]意に違事の用意[illegible]
今一二百油断なさん大事に至らんこと現然[illegible]最も良策
彼奴を呼びし[illegible]斬を断ずべ[illegible]
[illegible]智の片桐なり〻油断なさ[illegible]
も尼ときト詰るうちすり心[illegible]尼小[illegible]

いろ〳〵御知恵をかりまして一応御相談をいたしまして
御もなるべくの所にて行なうべくおふくろ方にてちすあもし諸神
明に相成るべく異心なくとの御記詰をかかせられこと
お使者なら延期者方にもさすがに油断なく儀式
迄へわいろ出来とのはかり事女儀に格別綱かいしけり
上に寿長庵こと人のうちにけり儀ちと密談なさるべく
あけ来るべく所相談へ何故やらん御方さまの御方のみけ
しきすきまなく何を寿長庭迄なさるべく用意迄ゆえに用意
あれませねば御用さま御迷惑の御様子ときくようと
栄氏の毒白へ差〳〵●品の前やきもちやかなこと最前も最前
とて[illegible]御の御のみるきの水何ぞ苦労
〳〵ま〳〵ことドレ見がいとおもうなしと却こんとそもる主道へファ
これ〳〵御用の迷惑ともさぶこと今の一儀でへと
ハテどうぞ色へハテよいとやすに

用紙

和政

同　下の二

海鼠寝所の場

傳へこと、おなきけりを御疑ひ正八幡を拝さしたる毛氏の御

書くさくさかさやうな覚えの事

何者が根もなきさかしらこまやかなる御器量をうけまする

ごとく何なくも身を餘るとそねむやからの御驕にて私ゆゑに見共

きどがふ人讒者の疑うけ家の為にやすする

こともあらぬうたがひまだらもこたとつくも言上せ

し而あの一條ならず迚八王、そうそまじく言葉ざく

みにてどやうたがひぬけ入りてこれさくかの証據

おゝそれ〳〵ちめの同見えの時口でいつそ目の

うちに物と合もいはきこゝろとそれ見ぬ

ぬ所なもじらそのやうな二心でなからう

文武、国りのくに国主の馬を知らぬ人畜生

くやきるの知らあらの市ひとりに長門とは

現在秋づつの家頼まてかはぬを母とそ馬を

談合もせいで信子勝手に家外者の市ひが

助宮ゆるすこと福がさくぐとけれわと思ふこそら

のいい先へせしもこの国せめ無頼ちめどとこ。こ

用紙

わなし

とゝも国を作の大じもの 頭を振るも 食じき 飛るも 世ゝ
うゝも吠ゆゝも其の身の 怖さゆゑ 皆 身と男子深
切ぶく えせ義なきこゝろ 四方の山々 響なし
さくまだゝちまちて 頼は かたちや 飛鳥川 上 隠
ぶちや 滅ぬ 山々 陽炎の 行ゝる 大河路 下
につゝとて 千万人 心なかめ 思し はの身と 今ん
ひゝぶて 思ゝて ゝれゝる もの もなく 涙 いひつけて
ひゝ 思ゝ なの身 ひゝ ゝ さ いなもぞや 上 哭ぐ ゝ
頼ゝ なの身 ひゝ ゝ 思ゝ 道 なき ゝ さら
くゝ ゝの ふ 偽へ サ、 ゝの ち 世 ち 道 なき ゝ さら
ゝの身に 覚ゝ なき 親 ゝ ち なゝ ゝ け ゝ 縛人 知ず 偽

用紙

世 ゝ ゆみ 不 ゝ 母の 母 ゝ ゝ と 寿の 母 ゝ 夢の 解も
何 忘 ゝ ゝ べ ゝ ゝ ゝ 高 ゝ ゝ ゝ

（注）アコレ　カシラ男のやうな

（修）イヤ　しうに共のお心

（注）ヒさの儀の外ハ

御写も賞偉の前　毛沢　いつも申　覚えなし　不ヤ　妄

ぶ〻ます　たゞん遠慮なく〻ま〻ものいつたらとぶまま

うとこゝろのまゝやせあるとのふ。男はすん紙れも男はし

思ふのひけし。おのをれ女でこゝろなれ織田右大臣ぶ女

の事を　ばかりに　祀らす　野寺の水仏と朽ち

たてゝ〻や　尼将軍のゝあ〻れる　誠に俤の用合いな

いつちの皮をぎ〻を今た思ひ知ら　せて　呉れ〻ぞ　大宮

世よりそ〻〻ならず　ぜつらかけつく〻み何位

見てかたゝ〻ぞや思ぞ〻　置を〻し昔を今何位

ぶ〻ものふ修　かくてまでんやと上げてれ御疑への時ぶる上

（修）御恵の御ものこをまで御〻〻みの一の詩を月明る

たゝとれ思でこゝを　動氣かけて　世のからなる天上の

共りさをへに　ぶりてうはる　阿曝　底敷の　苦をさん〻さ

ぜや　（注）コレとゝ　（修）御恵　（修）お詩なされて下さりま

（注）イヤ　俤ちや　俤ちやとゝ　ぢやとゝて　（修）御

恵での〻までも世ぢちさ入れなく〻のくまでつら〻皆ら

せ〻まも　問をたゝら　お心うす　落度を見つけ

を〻ば　けゝまゝん御心底と　お国ざはとからん何事の

問まも　なへ　（注）齋代の世ま　ちをる　ちをさ〻ならと　お問せらま

（御）　ひとを　三ん　い　（修）御が　骨身に八寸釘　大罪犯せ　ら地と

用紙

もうや生きて居られませぬ（猛烈でありますわい）

そこで誠に下さらせ（途）アヽコレ

さてさてこの邪推

そもそもなるほどの者になるのを何でそなたは

なってつけ[redacted]

なるほどのチト[redacted]

少し邪知邪気の[redacted]出て[redacted]

言葉の科[redacted]

そこらの不便（修）

[redacted]

べこべこのやうに（修）（チエ、勿体なきナガ何なる

宿世の業因なりとか（途）結ぶえるしの色糸に組まれ

ぬ世も繋がれて（修）（御）面白

世のうさも忘れ[redacted]（修）[redacted]ならんの世の中に形を

そめる浮気をしやうと[redacted]際らうが[redacted]（修）モシ何

となされまうと（モシ御）方さま（御）何うぞ宜なされまうる

アトコレもうしう（途）執念がうも出ずうでな

一緒のうちんみうまで悲嘆の最後を遂げさせ

さてさて沈等が怨念の所為なうかとか何

れだに情得をなすうもうつ生きてならん限りこ

ざかうその一言御身ず損ぬ自業自得

招きうし罪科なるを（サアうれ）（修）ユリヤ

なさまうと（モウシ）（御）方さまもうんうかたなれ

用紙

まさいのふ 逆 へエ、謡ひ変てくれぬかいのふ 修 へモウ

シ〳〵 逆 へすきうきうふ 修 へアイタ、〳〵〳〵 定 へエ、面白

ぢ来てくれぬかいのふ ○珍 へヤ、〳〵 修 へオ、珍梅

かよ、ことこそ〳〵シ 略 へ心得ま〳〵 ○ダ

用紙